

富山大学経済学部大熊信行文庫  
ファイル収納資料リスト

2026年1月

富山大学経済学部資料室

## 凡例

- ・このリストは大熊信行とその関係者や関係機関などに言及した図書の記述箇所、記事の複写物、ダウンロード印刷資料のリストである。
- ・資料は大熊信行文庫整理の一環として収集されたもので、収集後に現物を収蔵したもの、インターネット公開文献、ブログ記事、パンフレット類も含まれている。本文に記述がなく、注や引用文献に大熊信行に関する記述や著作が掲載されているものもある。
- ・収集期間は2017年～2025年、資料の発行年は1927年～2025年で、著者名のアルファベットに配列しファイルに収納されている。

タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
1 一橋論叢 44(1)	赤松要	一橋大学	1960年7月	p86-108	「一橋の伝統における経済政策思想：一橋大学創立八十三周年記念講演」p96-97 *1958年3月22日講演録音
2 立命館法学 274	赤澤志朗	立命館大学	2001年3月	p2607-2633	「戦後日本の戦争責任論の動向」p2613 *『国家悪』
3 芥川龍之介全集 20 書簡 4	芥川龍之介	岩波書店	1997年8月	460p	「[昭和2(1927)年]2月17日 大熊信行 田端から」p284, 「注解」p391,「人名解説」 p22-23
4 「生活者」とはだれか： 自律的市民像の系譜(中公 新書)	天野正子	中央公論社	1996年10月	242p	「さようなら消費者：大熊信 行の経済学批判」p124-151, 「もう一つのプロローグへ： 生活者像をひらく」p229-240
5 危機のイデオローグ：清 水幾多郎批判	天野恵一	批評社	1979年8月	276p	「大熊信行の問題提起をめ ぐって」p161-164,「大熊信 行の戦争責任論「国家」と 「民族」」p249-260
6 批評精神 [1]	天野恵一	批評社	1981年3月	p125-137	「大熊信行の『政治経済 学』：その無邪気な翼賛をめ ぐって」
7 批評精神 [1]	天野恵一/ 加藤晴康/ 菅孝行	批評社	1981年3月	p11-52	「天皇制ファシズムへの抵抗 と翼賛,そして転向をめぐって 座談会」p13, (注6)p51
8 批評精神 2	天野恵一	批評社	1981年11月	p152-159	「大熊信行の『国家悪』： 「国家悪はどこへ行った か」：戦後思想の解説」
9 月刊フォーラム 1994(10) 特集戦後50 年：「侵略」は反省された か	天野恵一	フォーラム 90s	1994年10月	p6-15	「可能性としての戦後：「省 略された戦争責任論」の思想 史」
10 インパクション 172	天野恵一	インパクト 出版会	2010年1月	p170-177	「原爆と戦後：「実在」と 「虚妄」をめぐって：「その 夜は忘れない」(吉野公三郎監 督)・『日本の虚妄』(大熊信 行)」
11 経済学研究 30(4)	荒又重雄	北海道大学 経済学部	1981年3月	p1229-1245	「「資源配分」と労働の二重 性」 p1237,(注1)p1245
12 以静：企業と茶道に生 きて	在田保三	在田保三	1999年6月	332p	「高岡商で受けた大熊信行 先生の講義」p181-184,「学 問とは物事を切り開く武器： 大熊信行先生」p249-252
13 戦争文化と愛国心：非戦 を考える	海老坂武	みすず書房	2018年3月	341p	「大熊信行」(第7章 非戦の原 理から不服従の思想へ 5)p267-270,「注」p328- 329,「参考文献」p338-339, 「あとがき」p340-341

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
14	国際政経 6	枝松正行	二松学舎大学	2000年9月	p7-103	「いわゆる"生命再生産"と経済学の体系転換: フェミニストへの「労働の経済学」の提案」p96,100
15	都留文科大学研究紀要 84	枝松正行	都留文科大学	2016年10月	p59-85	「Lebenの生産・生活過程とサービス概念」p60,67,83,84
16	人口学研究 7	江見康一	日本人口学会	1984年5月	p1-8	「生命の再生産と経済の再生産」p5,6,8
17	あづまね 12	遠藤綺一郎	九里学園教育研究所	1994年10月	p33-53	「米沢の文人: 信行・廣介・秀信を中心として(新春講演会平成6年1月7日)」
18	日本英語教育史研究 15	遠藤綺一郎	日本英語教育史学会	2000年1月	p33-49	「置賜が生んだ文人 歌人 大熊信行」
19	激動期の日本・川南町開拓地に生きて 戦友・拓友に捧げる記録	藤野憲三	藤野憲三	2007年11月	240p	「大熊先生の功績: 「生命再生産の理論」」p10-11
20	父が子に語る激動の満洲十五年	藤野周一	東京図書出版	2014年4月	360p	「大熊信行」p227-233, 「大熊信行氏の「平和主義者と国家」を論ず」p317-334
21	短歌 49(6)	藤岡武雄	角川書店	2002年5月	p128-131	「歌誌「まるめら」のもつ意味: 近代短歌探偵ノート, 20」
22	家事労働のなかの「見えない」家事: 新たな視点からの家事の実証研究	藤田朋子	大阪府立大学人間社会学研究科人間科学専攻	2017年3月	145p	p19,29,(参考文献)p109
23	長崎大学教育学部社会科学論叢 43	舟越耿一	長崎大学教育学部	1991年5月	p11-36	「「思想のルール」としての戦争責任論」(注43)p35
24	アメリカ嫌い: いのちまんだら, 2	灰谷健次郎	朝日新聞社	1999年8月	171p	「先達の足跡」『理論』p103-106 *回顧に上原, 大熊含む
25	望星 86	濱川博	東海教育研究所	1977年9月	p100-101	「大熊信行: 「国家悪」をえぐる: 学芸記者の手帖から: 心に残る人々, 9」肖像写真 *『荒魂の人びと: 一学芸記者の手帖』p41-44, 1983年3月 収載
26	荒魂の人びと: 一学芸記者の手帖	濱川博	永田書房	1983年3月	236p	「大熊信行: 「国家悪」をえぐる」p41-44, 「阿部次郎の二メートルの手紙: 大熊信行に宛てた」p171-177 *初出: 『望星』86 1977年9月, 『本の本』2(10) 1976年10月
27	世界評論 3(7)	羽仁説子	世界評論社	1948年7月	p4-9	「平和の火をかかげよ: われらは戦争に反対する!」

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
28	日本の教育史学 46	羽田貴史	教育史学会	2003年10月	p276-283	「戦後教育と国家認識：福祉国家論と教育の諸相(提案, 戦後日本教育における国家認識, (2)シンポジウム, II 教育史学会第46回大会記録)」 p279 *大熊信行他『現代福祉国家論』1959年
29	研究年報経済学 24(3・4)	服部英太郎 (ほか)	東北大学経済学部	1963年3月	p283-317	「大学生活四十年：服部教授に聞く」 p291 *昭和5年コレクション玄関前にて写真(コレクション,新明,小畠,服部)
30	放送研究と調査 64(4)	東山一郎	日本放送協会放送文化研究所	2014年4月	p46-59	「未来論：テレビの未来はいかに語られたか シリーズ初期 “テレビ論”を再読する,5」 p58, 「文献」 p59*大熊「放送の本質を追究を」『CBCレポート』1964年1月
31	純文学と大衆文学の間	日沼倫太郎	弘文堂	1967年5月	195p	「小説と娯楽」(第2章公衆と配分 4節) p51-59 *大熊『文学のための経済学』,新装版,1970年4月
32	経済資料研究 35	平井孝典/ 荻野富士夫	経済資料協議会	2005年3月	p29-39	「『小樽高商の人々』の編集から百年史編纂へ」
33	アジア経済 57(1)	保城広至	ジェトロ・ アジア経済研究所	2016年3月	p106-109	「辛島理人著『帝国日本のアジア研究：総力戦体制・経済リアリズム・民主社会主义』」[書評]
34	社会学評論 61(3)	細江容子	日本社会学会	2010年12月	p277-293	「家庭科の中の社会学」 p279,286
35	名古屋工業大學學報 38	井深雄二	名古屋工業大学	1987年3月	p29-37	「わが国における1950年代の教育科学論(その3)：教育構造論争の分析(下)」(教育構造論争に関する文献一覧(1947-1960))p35-36
36	サヨナラだけが人生か。	いいだもも	はる書房	1998年11月	645p	「墓はひとつづつ賜れと言え：遠藤麟一郎『世代』初代編集長,大熊信行 歌人・経済学者」 p43-45 *『短歌現代』1978年6月号 2(6) p64所収
37	潮 751	池田大作と その時代編集委員会	潮出版社	2021年9月	p60-77	「民衆こそ王者 池田大作とその時代 希望をつなぐ人篇 6」 *大熊と池田について詳述 写真有

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
38	日本国家科学の思想	池田元	論創社	2011年2月	xi,272p	「大熊信行の詩情と論理：日本国家論をめぐって」，「大熊信行の「主体化」論と職能国家論：「生活」と「国家」との内的関連性」，「大熊信行の社会思想と配分原理：『ラスキンとモリスの世界』」，「大熊信行の「国家共同体=連帯」論と権力否定の論理：『国家悪』の思想をめぐって」p117-240
39	転向と翼賛の思想史（検証・「昭和の思想」，2）	池田浩士/天野恵一編	社会評論社	1989年8月	250p	「大熊信行の問題提起」p36-40
40	日本思想史学 38	今田剛士	日本思想史学会	2006年9月	p174-191	「戦中期大熊信行の秩序原理：国家総力配分と「人間」」
41	社会思想史研究 34	今田剛士	藤原書店	2010年9月	p180-197	「大正平和論と戦後日本：大熊信行の「国家悪」」
42	小樽商科大学人文研究 119	今西一	小樽商科大学	2010年3月	p1-36	「第三高等学校から東京大学へ：力石定一氏に聞く」 p4 *大橋良介『京都学派と日本海軍』
43	週刊読売 34(53)	井上ひさし	読売新聞社	1975年12月	p56-58	「わたしと『開戦の詔勅』」（「太平洋戦争下の天皇詔勅一覧」コラム)p57 *米沢工業高等学校(山形大学工学部)「母親学級」大熊講演
44	国際経営論集 39	石積勝	神奈川大学経営学部	2010年3月	p1-15	「「普通の国」のその先へ：ダグラス・ラミス著『ガンジーの危険な平和憲法法案』と9条問題」p7,15
45	新潟大学経済論集 (3)	伊藤岩	新潟大学経済学部	1969年2月	p53-61	「大熊氏の『資源配分の理論』」
46	経済論叢 139(1)	伊東光晴	京都大学	1987年1月	p139-153	「1930年代の経済学再考」(注2)p131 *『経済論叢』189(1) 2015年4月にも収載
47	一橋フォーラム21第59期 平成17年5月10日～8月4日統一テーマ 一橋精神（スピリット）再発見	伊東光晴	如水会	2005年5月	[]	「一橋大学の理論経済学者たち」
48	創価教育 1	伊藤貴雄	創価大学創価教育研究所	2008年3月	p5-44	「池田平和思想の研究I：大熊信行との対話に注目しつつ(第1回):大学紛争論」

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
49	創価教育 7	伊藤貴雄	創価大学創価教育研究所	2014年3月	p63-76	「第4回入学式講演「創造的生命の開花を」とその歴史的背景」 p69-70 *大熊「国家権力と大学の運命」『潮』1968年11月,p78
50	丸山真男の敗北(講談社選書メチ工)	伊東祐吏	講談社	2016年8月	265p	「戦後民主主義はなぜ二セモノなのか」p126,p217-218
51	小林多喜二生誕100年・没後70周年記念シンポジウム記録集	亀井秀雄	白樺文学館	2004年2月	p49-57	「大熊信行がとらえた多喜二と伊藤整」
52	経済セミナー 497	上久保敏	日本評論社	1996年6月	p50-51	「大熊信行の遺産：「配分原理」と「生命再生産の理論」」(再発掘：日本のノン・マルクス経済学,11) 肖像写真
53	大阪工業大学紀要.人文社会篇 44(2)	上久保敏	大阪工業大学	2000年2月	p1-32	「大熊信行の経済学」
54	大阪工業大学紀要.人文社会篇 46(1)	上久保敏	大阪工業大学	2001年10月	p81-124	「終戦時までのわが国ノン・マルクス経済学史の素描：「純粹経済学」と「政治経済学」」 p102-103 「大熊信行・赤松要・高島善哉：福田門下の政治経済学者」(政治経済学の系譜)ほか
55	大阪工業大学紀要.人文社会篇 50(1)	上久保敏	大阪工業大学	2005年10月	p1-25	「早坂忠の日本経済学史研究」 p8,(註2)p23
56	大阪工業大学紀要.人文社会篇 53(1)	上久保敏	大阪工業大学	2008年10月	p1-18	「立仙淳三と日本経済学：「教科書版」日本経済学の登場」 p14
57	大阪工業大学紀要.人文社会篇 57(2)	上久保敏	大阪工業大学	2013年2月	p1-23	「戦前の思想統制と高田保馬：思想善導への関与と「日本経済学」批判」 *高田「民族と経済」1940年10月20日 高岡高等商業学校 開校15周年記念学術講演会
58	大阪工業大学紀要.人文社会篇 58(2)	上久保敏	大阪工業大学	2014年2月	p1-36	「戦時期の「日本文化講義」と経済学者」(表12)p17,(附表1)「経済関係・経済学者の特別講義」p29,(附表2)「経済関係・経済学者の日本文化講義」p31-32 *高岡高商
59	大阪工業大学紀要 60(1)	上久保敏	大阪工業大学	2015年9月	p1-32	「講師一覧からみた戦時期「日本文化講義」の諸相」(附表2)「日本文化講義諸講習会講師一覧」 p22

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
60	境界研究 6	金山浩司	北海道大学 スラブ・ ユーラシア 研究セン ター内境 界研究ユニッ ト	2016年3月	p173-175	「辛島理人『帝国日本のアジ ア研究：総力戦体制・経済リ アリズム・民主社会主義』」 [書評]
61	教育社会学研究 61	鐘ヶ江晴彦	日本教育社 会学会	1997年10月	p210-211	「天野正子著,『「生活者」と はだれか：自律的市民像の系 譜』」[書評] p210
62	帝国日本のアジア研究： 総力戦体制・経済リアリ ズム・民主社会主義	辛島理人	明石書店	2015年1月	300p	「歴史的背景：貫戦期とい う時代」,「経済学の貫戦史と板 垣與一：植民政策学と政治経 済学」,「海軍省による知識人 の動員」,「板垣與一と東南ア ジア」p45,60,63,65
63	わが師・わが友 ある時代 史	加藤秀俊	中央公論社	1982年10月	224p	p29 *占領軍図書館でアルバ イト中に大熊信行をみかけた
64	戦間期「洋行インテリ」 の情報共同体：インター ネットを活用した情報政 治学(科研費研究成果報告 書)	加藤哲郎		2007年5月	16p	「新明正道のコレシュ,タール ハイマー研究会」p12-13
65	経済学史学会第78会大会 報告要旨	川口学	経済学史学 会	2014年5月	6p	「東京商科大学における戦争 経済学」p3-4 「大熊信行『政 治経済学』」
66	東京女子大学比較文化研 究所附置丸山眞男記念比 較思想研究センター報告 14	川口雄一	東京女子大 学	2019年3月	p113-86	「丸山眞男論文献年表(一)」* 大熊関連著作11件
67	彦根論叢 370	菊地利奈	滋賀大学経 済経営研究 所	2008年1月	p193-215	「小林象三先生の思い出(一)： 京都大学名誉教授佐野哲郎先 生インタビュー」 p196
68	人と作品現代文学講座 9 昭和編 2	木俣修	明治書院	1962年4月	p319-322	「大熊信行」
69	香川大学経済論叢 22(2・3)	木村正身	香川大学経 済研究所	1949年11月	p214-242	「ジョン・ラスキンと経 済学」p215,217- 219,228,229,237
70	香川大学経済論叢 33(1)	木村正身	香川大学経 済研究所	1960年5月	p5-46	「価値法則と配分法則：近代 家族経済の意味検討をかね て」p8,13,21,24,25,27,28
71	香川大学経済論叢 33(5)	木村正身	香川大学経 済研究所	1961年1月	p93-103	「経済理論学会のための一報 告原稿：“価値法則と配分法則 ”」p93,94,101,(追記)p103
72	研究年報 (1)	木村正身	香川大学経 済学部	1961年9月	p75-107	「人間労働の対象化規定と分 割規定：「配分」問題の一視 角」p79-81,98,101

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
73	香川大学経済論叢 55(1)	木村正身	香川大学経済学部	1982年6月	p140-166	「戦前ラスキン関係邦文献目録」p145,149
74	米沢そんぴんの詩 自伝	木村武雄	形象社	1978年3月	238p	「東亜連盟の運動」p155 *新明
75	女坂界隈	木村東介	大西書店	1976年6月	233p	「宮島詠士」p36-64 *『東介波乱万丈』1991年に収載
76	上野界隈	木村東介	大西書店	1979年2月	222p	「神童の思い出」p63-65,79-80,86 * 米沢商業学校教師時代の大熊エピソード(小島による『資源配分論』反論など), 「対談 (「森敦の問答縦横」『サンデー毎日』1974.11.17)」p165, 「対談 松永伍一と語る」(『地上』1975.11)p179-181 *『東介波乱万丈』1991年に収載
77	東介波瀬万丈 民族美術に賭けた一生	木村東介/酒井邦恭編	銀座屋出版社	1991年4月	293p	「米沢商業時代の忘れられぬ二人」p32-38 *「神童の思い出」『上野界隈』1979.2より, 「木村東介略歴」p283, 「宮島詠士」p186-289 *『女坂界隈』1976年より
78	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 43	橋高彌斗/三好恵真子	大阪大学大学院人間科学研究科	2017年2月	p1-22	「価値観の歴史から見るラスキンの固有価値論」p6,(引用・参考文献)p20
79	教育社会学研究 58	小林甫	日本教育社会学会	1996年5月	p142-144	「佐藤慶幸・天野正子・那須壽編著『女性たちの生活者運動:生活クラブを支える人びと』」[書評] p143
80	緑丘 18	小林多喜二	小樽高等商業学校	1927年6月	p1	「元小樽高商教授大熊信行著『社会思想家としてのラスキンとモリス』」[広告]
81	社会科学論集 154	小原博	埼玉大学経済学会	2018年6月	p1-13	「日本マーケティング学説史考:大泉行雄・商業の本質への根源的学究者」p1,4,7,10
82	礒川全次のコラムと名言 [ブログ]	礒川全次		2018年7月	2018年7月30日	杉田水脈議員の「生産性」発言と大熊信行の「生産」の経済学
83	礒川全次のコラムと名言 [ブログ]	礒川全次		2018年7月	2018年7月31日	杉田水脈議員は、少子化問題に真剣に取り組め
84	礒川全次のコラムと名言 [ブログ]	礒川全次		2019年12月	2019年12月25日	大熊信行の「人間再生産」の経済学
85	礒川全次のコラムと名言 [ブログ]	礒川全次		2019年12月	2019年12月26日	家の経済を「消費経済」と捉えてよいのか(大熊信行)
86	礒川全次のコラムと名言 [ブログ]	礒川全次		2019年12月	2019年12月27日	家の経済の合理化は生活再生産の合理化を意味する
87	礒川全次のコラムと名言 [ブログ]	礒川全次		2019年12月	2019年12月28日	家を人間生産の組織と解するのは自明にして初步的

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
88	礒川全次のコラムと名言 [ブログ]	礒川全次		2019年12月	2019年12月29日	山田宗睦著『危険な思想家』と大熊信行の経済学
89	大学生活	小泉信三	岩波書店	1939年12月	2,2,314p	「時局と経済学」(日本諸学振興委員会第1回経済学公開講演会(昭和13年10月8日 日比谷公会堂)に加筆)p153-173 *在田「学問とは物事を切り開く武器:大熊信行先生」『以静』p252,1999
90	Discussion Paper Series No.09-01[稿]	小峯敦	小峯敦	2009年5月	47p	「日本におけるロビンズの導入過程:1930年代と50年代、経済学者の反応様式 Ver.1.9[ロビンズはいかなる状況で導入されたのか]」 p11,13,41
91	Discussion Paper Series No.09-01	小峯敦	龍谷大学経済学部	2009年5月	50p	「日本におけるロビンズの導入過程:1930年代と50年代の経済学者の反応様式」 p13,15,44
92	[経済学史学会第73回大会(慶應義塾大学、2009年5月30日)報告集]	小峯敦	経済学史学会	2009年5月	p79-84	「日本におけるロビンズの導入過程:1930年代と1950年代」p84 *大熊信行「ロビンズとは独立・独自に配分原理の優位性を説いた」
93	龍谷大学経済学論集 55(1)	小峯敦	龍谷大学	2016年2月	p1-35	「ロビンズ経済思想の日本導入:一般均衡理論と経済体制論に対する反応様式」p9-10
94	「學燈」を読む:内田魯庵・幸田文・福原麟太郎ら	紅野敏郎	雄松堂	2009年1月	p332-338	「井上哲次郎・木下赳太郎・大熊信行・柳宗悦・小汀利得」(1993年11月)p335 *1938年2月号の大熊「食通と書通」*誤記「長岡高商教授」
95	商学討究 45(1)	倉田稔	小樽商科大学	1994年8月	p53-79	「小樽高商の先生たち」p65-71「3.大熊信行」
96	商学討究 45(4)	倉田稔	小樽商科大学	1995年3月	p1-35	「小林多喜二の小樽高商卒業」p8,21,30
97	商学討究 46(2・3)	倉田稔	小樽商科大学	1996年2月	p7-42	「小樽高商の第2期」p30-38 「8.大熊信行」
98	商学討究 46(4)	倉田稔	小樽商科大学	1996年3月	p1-18	「大正時代の小林多喜二の評論活動と彼の思想」(注4)p2,p3-6
99	人文研究 94	倉田稔	小樽商科大学	1997年8月	p47-66	「小林多喜二の昭和時代、拓銀時代」p60-62「4.大熊信行」
100	商学討究 54(4)	倉田稔	小樽商科大学	2004年3月	p1-20	「小林多喜二伝 補3および『小林多喜二伝』索引」p3-43「多喜二の大熊信行あて2つの手紙」,(索引)p11

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
101	商学討究 55(4)	倉田稔	小樽商科大学	2005年3月	p1-30	「小林多喜二伝 補遺 4」p28 「17.その後の文献」
102	小樽商科大学人文研究 128	倉田稔	小樽商科大学	2014年12月	p1-20	「小林多喜二伝補遺 7」p13 「4.井上ひさし講演から(1997年2月14日 商大および市民大学)」
103	風よ	桑島久男	菜の花舎	2014年6月	390p	「もめるフロ代値上げ(1967年12月15日朝日新聞朝刊5頁)」 (ひとと)p195 *大熊は東京都公衆浴場入浴料金協議会会長 議会会長
104	戦後和解のコミュニケーションと非対称性：元アメリカ兵捕虜問題を事例に 2016年度学位論文博士(社会学)	前川志津	立教大学	2016年12月	177p	p21 *鶴見俊輔「戦争責任の問題」中央公論社『思想の科学』1,1959年引用,(参考文献)p170 *要旨『社会学研究科年報』24 2017年,p93-96
105	エコノミスト 56(49)	[ ]	毎日新聞社	1978年11月	p98	「復刻版同人歌集・まるめら(大熊信行ほか著)」(新刊の窓)
106	一橋大学社会科学古典資料センター年報 26	牧野邦昭	一橋大学社会科学古典資料センター	2006年3月	p9-12	「大熊信行とラスキン：「政治経済学」と「ポリティカルエコノミー」」
107	開発経済学としての河上肇『貧乏物語』	牧野邦昭	京阪経済研究会	2007年6月	20p	p12
108	小峯敦「ロビンズの受容と拒絶—1930年代日本、経済学者の折衷様式—」について	牧野邦昭	京阪経済研究会	2009年5月	46p	p1-2
109	戦時下の経済学者 中公叢書	牧野邦昭	中央公論新社	2010年6月	p132-136	「大熊信行の「政治経済学」：ラスキンと政治経済学」
110	経済学史学会第78会大会報告	牧野邦昭	経済学史学会	2014年5月	[6]p	「荒木光太郎の経済学研究と活動」p[4] *「日本経済政策学会創立大会記事」日本経済政策学会編『経済政策の諸問題』1941年 p482引用
111	戦時下の経済学者 経済学と総力戦 新版 中公叢書	牧野邦昭	中央公論新社	2020年1月	p140-144	「大熊信行の「政治経済学」：ラスキンと政治経済学」
112	丸山真男座談 5	丸山真男/針生一郎	岩波書店	1998年5月	340p	p131 *戦後民主主義と虚妄
113	関西大学経済論集 54(2)	正木八郎	関西大学	2004年9月	p253-261	「『杉原四郎著作集I』」[書評]p259,260
114	日本家政学会誌 45(11)	松下英夫	日本家政学会	1994年11月	p1071-1074	「家政学本質論研究の回顧と発展への要望」p1071

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
115	国文学：解釈と教材の研究 48(14)	松澤信祐	学燈社	2003年12月	p120-129	「生誕100年小林多喜二の未発表書簡2通[写真・翻刻・解説]：大熊信行宛て」p128-129「大熊信行のこと」
116	商学討究 12(2)	南亮三郎	小樽商科大学	1937年12月	p188-195	「大熊信行氏著『経済本質論』」[書評]
117	六甲台論集 28(1)	三土修平	神戸大学	1981年4月	p36-50	「「生命の再生産」という視点の経済分析上の意義について」p37,(参考文献)p49
118	立命館経済学 50(3)	森脇丈子	立命館大学	2001年8月	p286-303	「「消費者」から「生活者」へ：大熊信行氏の「生活者」論を素材として」
119	日本家政学会誌 49(7)	村尾勇之	日本家政学会	1998年7月	p79-80	「関連領域から家政系大学のスタッフとなって」p80
120	季刊経済理論 42(1)	長田浩	経済理論学会	2005年4月	p92-94	「『経済学と現代の諸問題：置塙信雄のメッセージ』」[書評]p94
121	法学研究 48(1)	中村勝範	慶應大学	1975年1月	p95-100	「矢部貞治著「矢部貞治日記銀杏の巻」」p97
122	鹿児島大学法学論集 37(1・2)	仲村政文	鹿児島大学	2003年6月	p1-61	「ロマン主義的ユートピア思想の一類型：ウイリアム・モリス」p3,5 (注12)p54
123	家計経済研究 (78)	中野桂	家計経済研究所	2008年4月	p41-51	「環境を重視した新しい消費者教育：「消費者」から「環境調和的文化創造者」へ」p44-47,50
124	Journal of Design History, 9(4)	Shuichi Nakayama (中山修一)	Oxford University P.	1996年12月	p273-283	「The Impact of William Morris in Japan: 1904 to the Present」p273-274 *1995年8月26日にロンドンの〈ケルムスコット・ハウス〉でウィリアム・モリス協会に対して行なった講演の一部内容に修正を加えたもの
125	中山修一著作集1 デザインの近代史論	中山修一	中山修一	2012年3月	p189-203	「ロンドンで日本のモリスを語る」(3章2節) *'The Impact of William Morris in Japan: 1904 to the Present' と題して1995年8月26日にロンドンの〈ケルムスコット・ハウス〉でウィリアム・モリス協会に対して行なった講演の原稿を日本語に直したもの
126	秋田県立博物館研究報告 30	新野直吉	秋田県立博物館	2005年3月	p57-70	「名譽館長館話実施報告抄：千蒲善五郎・寺崎農業・鈴木空如・金子洋文・後藤逸女・小林多喜二」p69

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
127	福田徳三と高商・商大の時代 平成20年度一橋大学附属図書館企画展示講演会	西沢保	一橋大学附属図書館	2008年10月	29p	p3
128	一橋大学創立150年史準備室ニューズレター 1	西沢保	一橋大学創立150年史準備室	2015年3月	p10-20	「福田徳三とその「著作集」の刊行に向けて」
129	福田徳三著作集[パンフレット]	西沢保ほか	信山社	2015年3月	4p	西沢保「福田徳三著作集刊行にあたって」福田徳三研究会(代表),蓼沼宏一「刊行に寄せて」,斎藤修「経済史学の原点,清家篤「慶應義塾と福田徳三」,水田洋「『福田徳三著作集』を推薦する」,八木紀一郎「時代の課題と向き合う:社会的自由主義の可能性」
130	木漏れ陽のつぶやき[ブログ]	のっぽのSammy		2009年2月	2009年2月23日	「大熊信行先生のこと」
131	日本家政学会誌 57(2)	乗本秀樹	日本家政学会	2006年2月	p81-88	「大熊信行における「配分」概念の展開と生活経営論」
132	日本の理想	野依秀市	芝園書房	1964年10月	606p,図版4枚	「大熊信行氏の"日本の理想"批判」p125-177,肖像写真*「日本の理想」読売新聞.1964年1月14日-4月15日
133	東京大学大学院教育学研究科紀要 50	野崎有以	東京大学大学院教育学研究科	2011年3月	p243-252	「「生活科学」から「家政学」へ:矮小化の過程の考察」p245-246「大熊信行の生活科学」
134	戦後を拓く思想	小田実	講談社	1965年5月	468p	*天野恵一2010で「あとがき」〔「戦後は「虚妄」ではなかった。」〕,*新版1969年10月では「まえがき」
135	京都教育大学紀要 114	荻野雄	京都教育大学	2009年3月	p31-47	「沈黙の共同体から語りの協同体へ:戦前期大熊信行の思想」
136	AD・STUDIES 49	岡田芳郎	吉田秀雄記念事業財団	2014年9月	p40-41	「『ジャーナリズムの思想』編集・解説 鶴見俊輔:いま読み直す"日本の"広告・コミュニケーションの名著 20」[書評]*大熊「告白」『季刊 理論』1947年を抜粋収録
137	一橋フォーラム21第59期 平成17年5月10日~8月4日統一テーマ 一橋精神(スピリット)再発見	桶谷秀昭	如水会	2005年7月	[]	「福田徳三とその弟子たち」

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
138	高志人 6(11)	翁久允	高志人社	1941年11月	p2-8	「大熊信行氏の「文化運動観」について 六渓山房隨想」
139	京都学派と日本海軍：新史料「大島メモ」をめぐって	大橋良介	PHP研究所	2001年12月	349p	「序 「大島メモ」が語るもの」 p13
140	「戦後民主主義」の再審判：坂本義和を中心に[唯物論研究会研究大会 38]	大井赤亥	唯物論研究会	2015年10月	4p	p1
141	企業と社会 17	大泉行雄	同文館	1927年8月	p205-209	「大熊氏の「ラスキンとモリス」：大熊信行著「社会思想家としてのラスキンとモリス」昭和2年新潮社発行」[書評]
142	早稲田大学大学院文学研究科紀要 44(1)	大久保孝治		1999年2月	p133-148	「忘れられつつある思想家：清水幾太郎論の系譜」 p137,145
143	早稲田大学大学院文学研究科紀要 55(1)	大久保孝治		2010年2月	p17-30	「清水幾太郎の評伝のための覚書」 p21
144	戦後責任：アジアのまなざしに応えて	大沼保昭ほか	岩波書店	2014年6月	xvii,247,5p	p33
145	平和国家のアイデンティティ：リーディングス戦後日本の思想水脈, 1	酒井哲哉編 /大沼保昭ほか	岩波書店	2016年6月	ix,348p	大沼保昭「東京裁判・戦争責任・戦後責任(1984年)」 p209-247 *初出『思想』1984年5月
146	外交史料館報 31	大沼保昭	外交史料館	2018年3月	p19-35	「東京裁判：歴史と法と政治の狭間で」(講演会「東京裁判：国際政治と国際法の立場から」2017年3月24日外交史料館講堂)p26
147	近代山形の民衆と文学	大滝十二郎	未来社	1988年7月	390,12p	p59,60,73-75,109-111,113,115,117,126,219,238,322,323,索引
148	大虚空にそよ風が流れる	折原脩三	日本経済評論社	1988年9月	309p	「年譜」 p302 *「大熊信行氏追悼：ある悔恨」『思想の科学』87 1977年8月
149	國文論叢 59	王小梅	神戸大学文学部国語国文学会	2022年3月	p51-64	「戦後市民民主主義と吉本隆明：悔恨共同体から見えるもの」 p54 *博士論文「吉本隆明と戦後市民民主主義」第1章
150	吉本隆明と戦後市民民主主義	王小梅	神戸大学	2023年3月	98p	p10
151	経済教育学会第32回全国大会研究報告要旨集	龍世祥	経済教育学会第32回大会事務局	2016年8月	p40-41	「「生活者」の系譜：『底流経済学』へのアプローチと到達点」 p40

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
152	八千代国際大学紀要.国際研究論集 8(3)	斎藤寛	八千代国際大学	1995年10月	p117-139	「『生命再生産の理論』の射程：大熊信行の教育学批判を読む」
153	思想 988	酒井哲哉	岩波書店	2006年8月	p5-25	「国際政治論のなかの丸山真男：大正平和論と戦後幻術主義のあいだ」 p15-16
154	思想 104	酒井哲哉	岩波書店	2011年3月	p7-26	「核・アジア・近代の超克：1950年代日本政治思想の一断面」 p21-22,(注60,61)p26
155	神奈川大学評論 16	榎原昭夫	神奈川大学	1993年11月	p158-161	「現代に引き継がれる問題意識：大熊信行誕百年を迎えて」
156	彷書月刊 1999年6月	榎原昭夫	弘隆社	1999年6月	p22-23	「幻の『大熊信行全集』」
157	三田評論 456	坂村儀太郎	慶應義塾大学三田評論発行所	1935年8月	p48-51	「長野北陸紀行：小泉塾長に随伴して」 *富山高等学校ヘルン文庫
158	三田評論 520	坂村儀太郎	慶應義塾大学三田評論発行所	1941年1月	p52-53	「富山再訪記：塾長に随行して」 *川村泰雄(高商15回) 「官立高岡高等商業学校開学「十五周年」記念講演会の思い出」『越嶺会報』39 1997年12月 p16-17
159	立命館言語文化研究 22(3)	佐藤洋	立命館大学国際言語文化研究所	2011年1月	p99-110	「プロキノ研究史がかかる問題」 p103,(注)p109 *大熊信行研究会講演
160	日本社会情報学会学会誌(10)	佐藤佳弘	日本社会情報学会	1998年9月	p85-97	「情報コストから見た生活情報化の定量把握」 p87,(参考文献)p97
161	京都大学國文學論叢 34	澤西祐典	京都大学	2015年9月	p1-17	「芥川龍之介と卒業論文 'Young Morris'：旧蔵書中のウィリアム・モ里斯関連書籍を手掛かりに」 p12,13 (注)p14
162	日本家政学会誌 43(6)	柴田周二	日本家政学会	1992年6月	p569-575	「生活研究の視座」(引用,引用文献)p574,575
163	現代とマルクス政治学 こぶし文庫 戦後日本思想の原点	柴田高好	こぶし書房	2012年12月	294p,図版[2]p	「マルクス主義国家理論の再検討:津田道雄『国家と革命の理論』によせて」 p97,「自己否定の政治と平和運動:革新政治における政治観・政治論・平和論の混迷の克服」 p268,270,「あとがき」 p276,「人名注・索引」 p293
164	わが人生の断片：清水幾太郎著作集 14	清水幾太郎	講談社	1993年4月	p128-129	「スターインの夢」 *清水「戦争の経験」『朝日評論』1946年6月の大熊評『思索』,初出『諸君!』6(1) 1974年1月号 p190-203

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
165	思想 1130	清水靖久	岩波書店	2018年6月	p76-96	「戦後民主主義と丸山真男」p78-82(ほか)
166	地球社会統合科学研究(8)	塙原光	九州大学大学院地球社会統合科学府	2018年3月	p43-55	「戦後日本の知識人論と「進歩的文化人」批判」p48 *大熊「未決の戦争責任」『中央公論』1956年3月号
167	Season 3	創価大学附属図書館	創価大学	2004年11月	p[1-3]	「読書マラソンについて(座談会)」質問(5)の小塙伸忠 *『国家悪』
168	日本経済評論社月報 7	杉原四郎	日本経済評論社	1977年9月	p4-5	「歌人経済学者 今月の隨想」*大塚金之助,河上肇,高田保馬も含む
169	経済論叢 124(5・6)	杉原四郎	京都大学	1979年12月	p223-242	「福田徳三と河上肇」
170	関西大学経済論集 43(5)	杉原四郎	関西大学経済学会	1993年12月	683-699	「続 経済学者の追悼文集」p689-691,「渡植彦太郎」p690-691 *渡植と大熊の学風
171	関西大学経済論集 44(2)	杉原四郎	関西大学経済学会	1994年6月	p231-234	「続 経済学者の追悼文集 3」p234-236 「大熊信行」
172	岐阜大学教育学部研究報告. 人文科学 33	杉原利治	岐阜大学教育学部	1985年3月	p78-88	「国家から家庭へ: 大熊信行博士の家政観の成立」
173	経済資料研究 16	杉本俊朗/細谷新治	経済資料協議会	1983年6月	p1-64	「<対談> 経済学文献を語る: 私と経済資料協議会の歩み」p21 *杉本の昭和17年4月家宅捜査挿話に『マルクスのロビンソン物語』
174	国文学研究 29	杉野要吉	早稲田大学国文学会	1964年3月	p117-126	「昭和十年代の堀辰雄: 「沈黙的抵抗」の周辺をめぐって」p117 *「大日本言論報国会の異常性格」『文学』1961年8月引用
175	杉浦明平暗夜日記1941-45: 戦時下の東京と渥美半島の日常	杉浦明平	一葉社	2015年7月	575p	p292,299,305,310
176	ビジネス・マネジメント研究 17	鈴木貴大	日本ビジネス・マネジメント学会	2021年3月	p11-35	「労働に関する企業倫理規範の考察: 働き方改革の盲点と労働の意義」(注13)p15,(引用・参考文献15)p34大熊『社会思想家としてのラスキンとモ里斯』2004年2月
177	Journal of the Japanese and International Economies 15(3)	Suzumura, Kotaro/Amesden, Alice H.	Tokyo Center for Economic Research	2001年9月	p341-360	「An Interview with Miyohei Shinohara: Nonconformism in Japanese Economic Thought」p344,346

タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
178 厚生経済学と経済政策論の対話：福祉と権利、競争と規制、制度の設計と選択	鈴村興太郎	東京大学出版会	2018年5月	x,409p	「初期の研究者人生への影響」p141-143(「通念破壊の異端の経済思想：篠原三代平教授との対話」p137-162),(参考文献)p363-385,(索引)p383 *初出 Amsden, Alice H., and Suzumura, Kotaro An Interview with Miyohei Shinohara: Nonconformism in Japanese Economic Thought Journal of the Japanese and International Economies 15(3) 2001
179 大阪市立大学生活科学部紀要 7	多田吉三	大阪市立大学生活科学部	1959年3月	p187-198	「家庭経済論の基本問題」p193,(文献)p196,(註)p197
180 大阪市立大学生活科学部紀要 35	多田吉三/岩本奈知子	大阪市立大学生活科学部	1988年3月	p365-386	「生活科学論の系譜 1」p365-371,376,381,382,(注)p384,385
181 神奈川大学アジア・レビュー 3	高城玲	神奈川大学アジア研究センター	2016年3月	p173-175	「辛島理人著『帝国日本のアジア研究－総力戦体制・経済リアリズム・民主社会主义－』」[書評]
182 神奈川大学評論 16	高橋一行	神奈川大学	1993年11月	p154	「大熊信行著『ある経済学者の死生観』」
183 <日常性>からの経済学 - 『経済の限界』 - (経済本質論序説)	高橋正立	京都大学	1987年7月	343p	p6,9,15,18,29,134,138,139,141-146,155,159,160,161,162,193,220,221,229,267,268,297,298,300 *本文注も含む
184 思想 496	高島善哉	岩波書店	1965年10月	p129-136	「戦後民主主義と新しいナショナリズム：時評」*「大熊信行と山田宗睦」『現代日本の考察』1966年収載
185 民族と階級 高島善哉著作集 5	高島善哉	こぶし書房	1997年7月	407,xp,図版	「母体としての民族,主体としての階級」p47,「資本主義,社会主義,国家利益」p282 *『民族と階級：現代ナショナリズム批判の展開』1979年底本
186 アダム・スミスの市民社会体系 高島善哉著作集 6	高島善哉	こぶし書房	1998年7月	448,xiip,図版	「『国富論』と生産力の体系：3.分配過程としての市民社会」p164,「4.生産と再生産の過程」p419 *『アダム・スミスの市民社会体系』1974年底本

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
187	現代日本の考察 高島善哉 著作集 4	高島善哉	こぶし書房	1998年1月	341,xiip,図版	「大熊信行と山田宗睦」p48-52 *『現代日本の考察 民族・風土・階級』1967年底本
188	経済社会学の根本問題 高島善哉著作集 2	高島善哉	こぶし書房	1998年3月	515,xip,図版	「経済社会学の志向」p104-109,114-120 *『経済社会学の根本問題 経済社会学者としてのスミスとリスト』1941年底本
189	諸君！ 41(2)	竹内洋	文芸春秋社	2009年2月	p232-241	「革新幻想の戦後史15：進歩的文化人」と「保守反動」」 *福田恒存「平和論の進め方についての疑問」『中央公論』1954年12月,大熊「渦まく平和論争時論要解」『時事通信日刊時事解説版』1955年1月4日,「清水氏の四つの驚き」1955年1月5日
190	諸君！ 41(3)	竹内洋	文芸春秋社	2009年3月	p232-241	「革新幻想の戦後史16：剽窃まがいは福田恒存か清水幾太郎か」福田恒存「平和論の進め方についての疑問」『中央公論』1954年12月
191	現代哲学者論	田間義一 (玉井茂)	育英書院	1943年1月	271p	「現代日本の哲学者」p37,「杉村廣藏と大熊信行」p222-245 *小宮山ほか『戦後精神の行くえ』1996年9月 p76
192	上武大学商学部紀要 11(1)	田中秀臣	上武大学商学部	1999年9月	p35-66	「零度のエコノミー：大熊信行論」
193	口語短歌の世界	田中収	短歌新聞社	1987年11月	262p	「大熊信行」p23-27
194	検証「戦後民主主義」： わたしたちはなぜ戦争責任問題を解決できないのか	田中利幸	三一書房	2019年5月	359p	「「主権国家」観念を超える「国家悪」論—大熊信行と小田実」p205-216,「市民の「抵抗権」としての9条活用と民主主義精神確立に向けて」p216-230
195	話の特集 111	谷川徹三/ 黒柳徹子	話の特集	1975年4月	p93-103	「哲学者の語るままに(チャックより愛をこめて・25)」p100 * 山田十三二(高商1回)「大熊先生と蒲生先生を偲ぶ」『越嶺会報』2 1978年12月 p7
196	松山商大論集 28(5)	渡植彦太郎	松山商科大学商経研究会	1977年12月	p1-18	「「家族と労働」：大熊信行博士「生命再生産の理論」」
197	ステブストン物語：世界 の中の日本人	鶴見和子	中央公論社	1962年2月	200p	「世界市民への芽ばえ」p184-185

	タイトル	著者	発行所	発行年月	ページ	資料内容 *注記
198	悼詞	鶴見俊輔	編集グループSURE	2008年11月	409,vip	「大熊信行：『告白』と『文学的回想』と」 p68-70 *初出 「この本によせて」『文学的回想』1978年 p1-4
199	商経法論叢 9(3)	内田芳明	神奈川大学	1959年1月	p137-144	「『国家悪』と社会科学の任務」[書評]
200	新潮45 16(6)	内山節	新潮社	1997年6月	p188-200	「「明治の人間」の土性骨：経済学者・渡植彦太郎の生涯」職人や芸人たちの誇りが、商品の世界をこえさせ、文化の創造をもたらしていたその時代を生きた大学者」
201	関西大学経済論集 46(4)	植村邦彦	関西大学	1996年11月	p1-21	「高島善哉における「民族と階級」」 p11
202	危険な思想家：戦後民主主義を否定する人びと	山田宗睦	光文社	1965年3月	p169-188	「大熊信行：戦争体験の逸脱(2)」 p169-188
203	思想 921	柳澤治	岩波書店	2001年2月	p120-144	「戦前日本の統制経済論とドイツ経済思想：資本主義の転化・修正をめぐって」(注1)p140
204	経済学史学会年報 46	柳澤治	経済学史学会	2004年12月	p67-82	「日本経済思想史：戦前・戦前期の経済思想：過去20年の研究状況」 p74,76,79
205	社会思想史研究：社会思想史学会年報 14	安川悦子	社会思想史学会	1990年10月	p100-101	「「家族」思想の現在」 p100 *1960年代の大熊-森本論争
206	戦後改革と逆コース 日本の時代史 26	吉田裕編	吉川弘文館	2004年7月	287,13p,図版[8]p	「東久邇宮内閣から幣原内閣へ」 p31-37,(参考文献)p276 *大熊『戦争責任論』1948年